

表V-1 オオタカ保護方策検討のために必要な調査の構成の内容

調査項目	調査内容	調査手法		調査課題 主な記録事項	調査期間・頻度 調査結果の活用
		現地			
		踏査調査	定点調査		
生態調査	営巣地確認調査 (生息概況調査)	●	●	<input type="checkbox"/> 営巣木の位置 <input type="checkbox"/> 営巣木の樹種/樹高/巣高 /胸高直径/架巣形態 <input type="checkbox"/> 古巣の位置・状態 <input type="checkbox"/> 雌雄の鳴き交わり <input type="checkbox"/> 求愛・誇示ディスプレイ <input type="checkbox"/> 交尾行動 <input type="checkbox"/> 巣材運搬 <input type="checkbox"/> 警戒行動・範囲	■「求愛期」から「造巣期」を経て、産卵に至る期間に実施 ■繁殖初期の3~4月に、重点的に実施 ■営巣地点の確認及び「営巣中心域」の推定等に活用 ※県内営巣地登録箇所に関しては、既存情報に基づき、「生息概況調査」として、効率的に左記事項を確認するものとする。また新たに営巣地が確認された際は、随時営巣地登録情報に加え活用する。
	繁殖状況調査	●		■繁殖経過(巣の直接観察) 【抱卵期】 <input type="checkbox"/> 抱卵(姿勢)の確認 【巣内育雛期】 <input type="checkbox"/> 孵化、雛数、成長状況 <input type="checkbox"/> 給餌物の内容 【巣外育雛・家族期】 <input type="checkbox"/> 巣立ち数 ■繁殖関連情報(巣周辺の踏査) <input type="checkbox"/> 給餌物の解体場所 <input type="checkbox"/> 採餌行動、場所 <input type="checkbox"/> 監視用とまり場所 <input type="checkbox"/> 防衛・威嚇行動、場所 <input type="checkbox"/> 巣立ち幼鳥移動範囲	■営巣地が確認され、「抱卵期」から「巣内育雛期」を経て、幼鳥の分散・移動が完了する「巣外育雛・家族期」までの期間に実施 ■繁殖前期から終了時までの4~8月に、月2回程度実施 ■繁殖の成否及び「営巣中心域」の推定等に活用 ※巣への近接観察に際しては、繁殖妨害とならないように十分配慮する。
	行動圏調査		●	<input type="checkbox"/> 定点位置/可視範囲/時間 <input type="checkbox"/> 出現時間/出現位置/個体数 個体の特徴/行動/高度 <input type="checkbox"/> とまり場所、場 <input type="checkbox"/> 採餌行動、場所 <input type="checkbox"/> 帆翔、旋回場所 <input type="checkbox"/> 主要飛行ルート	■「繁殖期」から「非繁殖期」にかけての年間を通じて実施 ■月に1回程度で、必要に応じ繁殖期内に月2回実施 ■定点地点数は眺望地点における可視範囲の状況により決める ■「営巣中心域」及び「高利用域」の推定等に活用
環境調査	自然環境調査	●	●	■営巣環境調査 <input type="checkbox"/> 巣の周囲10~20mの植生 (高木層/亜高木層/低木層/草本層等) ■広域環境調査 <input type="checkbox"/> 巣から半径1.5km圏内の自然環境条件 (地形/植生/土地利用) <input type="checkbox"/> 巣の周囲の200~400m圏内の営巣に適した林の分布状況 (40年生以上、あるいは樹高11m・胸高直径20cm以上の林の分布)	■非繁殖期の影響が及ばない時期に実施 ■調査期間中に適宜実施
	社会環境調査	●	●	<input type="checkbox"/> 都市的土地利用状況 <input type="checkbox"/> 農業的土地利用状況 <input type="checkbox"/> 林業的土地利用状況 <input type="checkbox"/> 法的規制、開発計画等 <input type="checkbox"/> 営巣地への人の入り込み状況	■調査期間中に適宜実施